

〔様式 1〕

## 事務事業評価表

1～11までは、担当課による評価

記入年月日	平成15年3月25日			
平成15年度	事業コード	15110	電話	042-750-8030
担当部課名	生涯学習部	博物館	課	学芸班
事務事業名	施設運営費			

## 1 総合計画における位置づけ

政策名	第5章	いきいきとした生涯学習社会をつくれます	事業開始年度
基本施策名	第1節	生涯学習の推進	7年度
施策名	第1施策	生涯学習機会の充実	

## 2 実施根拠及び関連法令等

博物館法、相模原市立博物館条例、同施行規則
-----------------------

## 3 事務の区分

自治事務
------

## 4 経費の区分

その他の経費
--------

## 5 事務事業の分類

市単独事業
-------

## 6 受益者負担

あり
----

## 7 事業概要

(1)事業の目的...何をどのように(どのような状態に)したいのか	(2)対象(誰、何)
相模原市に関する資料を収集・保管・研究・展示し市民の学習を支援する。また、博物館の魅力でもある特別展示や講演会、各種講座等を開催し生涯学習の場の提供など政策の実現に努める。	市民全般(来館者)
	対象数 123,000人
(3)平成14年度事業の内容...市が実際に行った事業の内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>特別展示 企画展(春季、秋季)開催 開催延日数 81日</li> <li>特別展(夏季) 開催日数 38日</li> <li>収蔵品展(秋季、冬季) 開催延日数 88日</li> <li>講座教室等 年間15本開催 延べ参加者 2,700人</li> <li>講演会 年間15回開催 延べ参加者 1,197人</li> <li>星空観望会 週1回で年間27回開催 延べ参加者 895人</li> <li>研究報告 第12集刊行 200冊</li> <li>プラネタリウム、全天周映画(平日2回、土日祝及び春夏冬休み期間中4回、年間観覧者数 49,500人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観覧者(延べ) 23,287人</li> <li>観覧者 16,602人</li> <li>観覧者(延べ見込み) 11,000人</li> </ul>
(4)個別計画の概要	概要
計画名	
計画年次	年度～年度

## 8 評価指標...事業の目的達成度を計るための指標

15,16年度は目標値

成果指標	指標名	指標式	指標設定の意図	指標の推移(年度)				
				12	13	14	15	16
	博物館入館者数増減率(%)	本年度入館者数÷前年度入館者数*100	入館者の増減率から博物館への関心度を量る	97	119	93	100	100
	活動指標	博物館実施事業への参加者数増減率(%)	参加者の増減率から博物館利用者ニーズを量る	88	145	92	100	100

## 9 事業費等の年度別状況

〔金額単位：千円〕

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
	決算	決算	決算	予算	予算(見込み)
事業費	124,352	121,163	115,627	94,103	94,103
人員・時間数	11/人・年	11/人・年	11/人・年	11/人・年	11/人・年
人件費	92,290	92,290	92,290	92,290	92,290
その他経費					
合計	216,642	213,453	207,917	186,393	186,393
特定財源	15,204	15,969	14,243	16,023	16,023
対象数	111,161	132,776	123,000	123,000	123,000
対象の単位あたり経費	1.9	1.6	1.7	1.5	1.5

10 個別評価

(1)達成度 評価 A ▼	A:達成している	チェック項目	・成果指標の達成度 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	B:一部達成していない		・活動指標の達成度 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	C:達成していない		・事業目標の達成度 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
		説明	平成13年度は、ロボットフェスタが相模原市で開催され、博物館も会場となったことで入館者の著しい増加があった。この特別の要因を除いても、年間入館者数は横ばい、微増状態を保っている。これは実施事業の成果が表われており、一応達成度の評価をAとした。
(2)必要性 評価 A ▼	A:適応している	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・市民や社会のニーズにかなっている
	B:一部適応していない		<input checked="" type="checkbox"/> ・状況の変化(対象や内容)に対応している
	C:適応していない		<input type="checkbox"/> ・当初設定した事業目的が達成されていない
		説明	<input type="checkbox"/> ・国、県、民間、市民との役割分担から見て、市が事業を行う必要がある 市民の学習意欲に応えられるよう、学習相談、資料展示、展示解説、各種講座、講演会等を実施しており、その必要性は高い。
(3)有効性 評価 A ▼	A:有効である	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・上位の施策、計画目的達成のために有効である
	B:一部有効でない		<input type="checkbox"/> ・期待された成果が得られている
	C:有効ではない		
		説明	本事業は、博物館が生涯学習の推進を担う施設として実施するものであり、市民の学習意欲に応えるべく、内容の充実を図っている。
(4)効率性 評価 B ▼	A:優れている	チェック項目	<input type="checkbox"/> ・予算や人員に見合った効果が得られている
	B:一部改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他市と比べてコストや効率性が優れている
	C:改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他の類似事例と比べてコストや効率性が優れている
		説明	<input checked="" type="checkbox"/> ・同一対象者に対して同種のサービスが重複していない 本事業は生涯学習の推進に寄与する事業である。様々なニーズがあり、効率性だけでは実施ができない面を含んでいる。
(5)公平性 評価 A ▼	A:公平である	チェック項目	<input type="checkbox"/> ・対象者と非対象者との不公平・不均衡は、妥当な範囲である
	B:一部公平でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・受益者の費用負担は適正である
	C:公平でない		<input type="checkbox"/> ・対象者の設定は適切である(年齢や所得等を考慮している)
		説明	入館料は無料である。特別展、プラネタリウムの観覧料は受益者負担、近隣の自治体の状況等を踏まえて設定。妥当な料金設定と思われる。
成果向上の余地		事業費削減のために取り得る手段と削減額	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> ない	説明: 実施事業等について、PRや実施内容等更に工夫することで成果向上が期待できる。	手段	事業費削減にはこれまでも取り組んできており、特別展示の削減、プラネタリウム番組の削減等々事業費の削減を図っている。この形での削減は限界に近い。事業の抜本的見直しが必要となる。
		削減額	(参考) H14 H15 21,524 千円

11 総合評価

評価	A ▼	他自治体の類似事業との比較
		本事業と類似の事業で他館状況であるが、当館のように博物館とプラネタリウムが一体となった施設で、なおかつ規模的にも類似の施設は数が少ないので事業全体での比較はなかなか難しいと思われる。
今後の進め方		本事業の中の展示教育普及事業でみれば、7(3)に示すと通りの事業を行っており、これは同規模の他館と比較しても、内容事業数とも充実している。
<input checked="" type="checkbox"/>	継続	総合評価に関する説明
<input type="checkbox"/>	見直し	本事業は、博物館の生命ともいえるもので、博物館がある以上継続する事業である。ただし、厳しい財政状況の中では、事業内容を精査し限られた事業費の中での実施が必要で、この点に関し平成13年度、14年度、15年度と事業内容の精査と事業費の削減を図ってきている。
<input type="checkbox"/>	廃止	
<input type="checkbox"/>	完了・廃止済	今後の進め方としても方向性は同じと考えられるが、財政状況により、本事業に含まれている子業について、場合によっては実施の有無も含めた検討が必要となってくる。

12 二次評価コメント

<ul style="list-style-type: none"> <li>・入場料の徴収について検討すること</li> <li>・学芸員によるプラネタリウム、全天周映画の操作を検討すること</li> </ul>
---